

Ⅲ-4

文化的持続可能性—話題にならないけど持続可能性の基盤？

『フィンランド語の世界を読む』27 課で持続可能な発展という問題を扱いました。そこでは、持続可能な発展が生態的、経済的、社会的、そして文化的という 4 つに分類される場合があることにも触れました。それを受け、このサイトの資料では、すでに生態的持続可能性、経済的持続可能性、社会的持続可能性のそれぞれについて、フィンランドの取り組みも含め検討してきました。そして、今回は文化的持続可能性の順番となります。これまでの資料との違いは、理論的な話が中心になる点です。フィンランドの具体的な取り組みについての話ではなく、今回は「文化」についての議論を中心に見ていくことが大きな目的です。そのため、使用する文章も読みづらいものが多いかもしれません。いい加減なようですが、完璧に理解することにこだわらず、重要な点を把握することをめざしましょう。もちろん、まちがった理解は許されませんが。

【1】パンデミックを招いたのは人間！

- a. On esitetty, että ihmisten haitallinen luontosuhde luo edellytykset ihmisille vahingollisten virusten leviämiselle pandemiaina.
- b. Pandemian ymmärtäminen ja siltä suojautuminen ovat tuoneet näkyville kulttuurisen luontosuhteen ja ihmisten nykyisen globaalien toiminnan ongelmallisuuden, vaikuttavuuden ja laajuuden. Kokonaiskestävyyden tavoittamiseksi tarvitsemme niihin muutoksen.

■ 語句・文法

haitallinen「有害な」< haitta / luonto-suhde「自然との関係」 / ihmisille vahingollisten virusten leviämiselle「人間に害を与えるようなウイルスが広がることへ」(vahingollinen「損害を与えるような」< vahinko, leviämiselle「広がることへ」[向]< leviäminen 動名 < levitä) / pandemia「パンデミック」 / suojautuminen「自分を守ること、退避すること」動名 < suojautua < suojata < suoja / näkyville「見えるように」⇒ näkyvissä, näkyvistä, näkyviin, näkyvillä, näkyviltä / ongelmallisuus「問題をはらんでいること」< ongelmallinen < ongelma / vaikuttavuus「影響を及ぼすこと、有効性」> vaikuttava < vaikuttaa / laajuus「広範さ」< laaja / kokonais-kestävyys「総合的持続可能性」 / tavoittamiseksi「達成するために」動名[変] < tavoittaa / niihin「それらへ」[入]< ne

● フィンランド語理解のための訳例

- a. 提示されている | 人間の有害な自然との関係が | 作り出したと | [前提条件を | 人間にとって有害なウイルスが拡大することに対する | パンデミックとして]。
- b. パンデミックを理解すること | そして、それから自らを守ることは | 明らかにしてきた | [文化的な | 自然との関係の | そして人間の現在の地球規模における活動の | 問題があることを、 | 影響力をもつことを | そしてその規模の大きさを]。総合的持続可能性を達成するために | 我々は必要とする | それらへ | 変化を。

◎意訳

- a. 自然に対する人間の有害な関係が、人間にとって有害なウイルスがパンデミックとして拡大することの前提条件を作り出したことが示されている。
- b. パンデミックを理解し、それから我々私自身を守ることをめざす中で、我々の自然との文化的な関係や我々人間が現在行っている地球規模の活動が問題をはらんでいること、さまざまな影響を及ぼしていること、そしてその影響が大きなものであることが明らかになってきた。総合的な持続可能性を達成するためには、それらに変化が起こることを我々は必要としている。

★補足

これらの文章の中に出てきた「人間の有害な自然との関係」「我々の自然との文化的な関係」、そして「人間が現在行っている地球規模の活動」といったものが、パンデミックを生み出した要因だといっています。それでは、これらのことをまとめて何と呼ぶのか、それを見ていくことにします。

【2】文化的持続可能性は 4 つの持続可能性の一つ？

Kulttuurinen kestävyys on usein aiemmin tulkittu suppeammin kestävä kehityksen neljänneksi ulottuvuudeksi, mutta on myös esitetty, että kulttuuri toimii välittäjänä kestävyuden eri osa-alueiden välillä tai jopa koko kestävä kehityksen mahdollistajana.

■語句・文法

aiemmin「以前は」< aiempi < aika / on tulkittu「解釈されてきた」受完 < tulkita / suppeammin「より狭く、より限定的に」[副]比 < suppea / neljänneksi ulottuvuudeksi「4 番目の次元だと」(neljänneksi [変] < neljäs < neljä, ulottuvuudeksi [変] < ulottuvuus < ulottuva < ulottua) / välittäjänä「仲介者として」[様] < välittäjä < välittää < väli / osa-alueiden「分野の」[複属] < -alue / mahdollistajana「可能にするものとして」[様] < mahdollistaja < mahdollistaa < mahdollinen

●フィンランド語理解のための訳例

文化的持続可能性は|しばしば|以前は|[解釈されてきた|より狭く|持続可能な発展の|4 つ目の次元だと]、|しかし、また提示されてきた、|<次の>ことが|文化は活動する|[仲介者として|<持続可能性の>異なる分野の間で]|あるいは|<次のもの>[さえ|全体の持続可能性を|可能にするものとして]。

◎意訳

これまで文化的持続可能性は、しばしば持続可能な発展の第 4 の次元として狭義に解釈されてきた。しかし、文化が持続可能性の異なる次元を仲介するものとして、あるいは持続可能性全体の実現を可能にするものとして機能することも示されてきた。

★補足

ここでは、文化的持続可能性が他の持続可能性の実現を可能にするといっていますが、それはどのような意味なのでしょう。それを探るためには、なにより「文化」とは何かを知る必要があります。

【3】文化の意味は広い

Kulttuurin voidaan katsoa olevan kaiken yhteiskunnallisen toiminnan taustalla. Arkiajattelussa kulttuuriksi ymmärretään lähinnä taiteellinen toiminta ja tuotanto, mutta laajemmin määriteltynä kulttuuri tarkoittaa kaikkea inhimillistä ja yhteiskunnallista toimintaa uskomuksista ja arvoista lakeihin ja toimintatapoihin. Kulttuuri on ihmisten kesken jaettuina aineettomia ja aineellisia perinteitä.

■ 語句・文法

kulttuurin voidaan katsoa olevan ... 「文化は…にいると見ることができる」[分構] (olevan [属] < oleva 能現分 < olla) / taustalla¹ 「背景に」[接] < tausta / arki-ajattelussa 「日常の考えにおいて」[内] < -ajattelu < ajatella / kulttuuriksi ymmärretään 「文化だと理解される」 / lähinnä 「おもに」 / laajemmin 「より広く」[副] 比 < laaja / määriteltynä 「定義されたものとして」[様] < määritelty 受過分 < määritellä / ihmisten kesken jaettuina 「人々の間で分けられたような」(jaettuina [複分] < jaettu 受過分 < jakaa) / aineettomia 「無形の、非物質的な」[複分] < aineeton < aine / aineellisia 「有形の、物質的な」[複分] < aineellinen < aine / perinteitä 「伝統」[複分] < perinne < peria

● フィンランド語理解のための訳例

文化は|見ることができる|[~にいると|すべての社会的活動の|背景に]。日常の考えにおいて|[文化として理解される|おもに|芸術的な活動と作品]、|しかし|より広く定義されたものとして|文化は意味する|すべての人間的な|そして社会的な|活動を|[信念から|そして価値観から] |[法律へ|そして行動様式へ]。文化は~である|[人間の間で分けられた|無形の|そして有形の|伝統]。

◎ 意識

文化はあらゆる社会活動の背景に存在していると考えることができる。日常的な考え方では、文化はおもに芸術的な活動や作品だと理解されているが、より広義の定義によれば、文化は信念や価値観から法律や行動様式に至るまで、あらゆる人間的・社会的活動のことを意味する。文化とは、人々の間で分かち合われる無形の、そして有形の伝統なのである。

【4】広義の「文化」と狭義の「文化」。

Usein kulttuuri jaetaan ”laajaan” ja ”suppeaan” näkemykseen, jolloin laaja kulttuurin käsite viittaa ihmisten elämäntapaan kaikkine aineellisine ja aineettomine muotoineen, kun taas suppea kulttuuri lähinnä taiteeseen ja korkeakulttuuriin.

■ 語句・文法

jaetaan「分けられる」受現 < jakaa／käsité「概念」< käsittää < käsi／viittaa「指し示す、言及する」(+[入])／kaikkine aineellisine ja aineettomine muotoineen「あらゆる物質的および非物質的形態とともに」(kaikkine[共]< kaikki、aineellisine[共]< aineellinen、aineettomine[共]< aineeton、muotoineen[共]+単₃所接 < muoto)／kun taas「一方では」／korkea-kulttuuriin「ハイカルチャーへ、上位文化へ」[入]< -kulttuuri

●フィンランド語理解のための訳例

しばしば文化は分けられる|「広義」と「狭義」の見方に、|その場合、広義の文化概念はさす|[人間の生活様式を|すべての物質的、そして非物質的な形態を含めて]、|一方で狭義の文化とは主に芸術やハイカルチャーを(さす)。

◎意訳

文化はしばしば「広義」と「狭義」のものに分けられる。それらのうち広義の文化概念とは、あらゆる物質的、そして非物質的な形態を含めた人間の生活様式をさすのだが、一方で、狭義の文化とはおもに芸術や学問・文学・音楽などのハイカルチャー(上位文化)のことを意味する。

【5】kulttuuri「文化」の定義の一例(Tieteen termipankkiによる定義)

tietyn yhteisön omaksumat ja jakamat arvot, merkityksellistämisen, viestimisen ja tekemisen tavat sekä todellisuutta jäsentävät käsitykset, uskomukset ja tietojärjestelmät.

■語句・文法

tietyn「ある特定の」[属]< tietty ⇒ tietää／omaksumat「採用するような」[複主]< omaksuma 動分 < omaksua／jakamat「共有するような、分け合うような」[複主]< jakamat 動分 < jakaa／merkityksellistämisen「意味づけすることの」動名[属]< merkityksellistää < merkityksellinen > merkitys < merkitä／viestimisen「コミュニケーションすることの」動名[属]< viestiä < viesti／todellisuutta「現実を」[分]< todellisuus < todellinen < tosi／jäsentävät「分析するような」[複主]< jäsentävä 能現分 < jäsentää／käsitys「概念、理解」< käsittää < käsi／tieto-järjestelmä「知識体系」

●フィンランド語理解のための訳例

〈文化とは〉ある特定の共同体が採用し共有する価値観|、[意味づけすることの、コミュニケーションすることの、そして何かをすることの方法]、さらに現実を分析するための概念、信仰、そして知識体系〈のことである〉。

◎意訳

〈文化とは〉ある特定の社会が受け入れ共有する価値観であり、意味づけをし、意思疎通を図り、そして行動をするための方法であり、さらには、現実を分析するための概念、信念、そして知識の体系のことである。

★補足

ここまで見てきてわかるように、問題となるのは広義の文化です。参考までには、『文化人類学事典』（石川栄吉他 編、弘文堂、1987年）における「文化」の定義を挙げておきます。

特定の社会の人々によって習得され、共有され、伝達される行動様式ないし生活様式の体系

文化をこのように理解するのであれば、【1】の文章でパンデミックを生み出したものとされていた「人間の有害な自然との関係」「我々の自然との文化的な関係」、そして「人間が現在行っている地球規模の活動」もすべて「文化」だということがわかります。

これまで読んだ文章の内容を考えれば、我々人間の行動様式・生活様式、そして、それらの基盤となる価値観といったものすべてが文化だということになると思います。つまり、人間の活動はほとんどすべて「文化」だと考えることが可能です。そうであれば、次の文章の内容にも十分に納得がいきます。

【6】人間は文化的存在、だから人間の研究は文化の研究

Ihminen on ymmärrettävissä perustavanlaatuisesti kulttuuriseksi olennoksi, joten tiettyssä mielessä kaikki ihmistieteet rinnastuvat kulttuurintutkimukseen: kun tutkitaan ihmistä, tarkastellaan väistämättä myös kulttuuria ja kulttuurisia ilmiöitä. Kulttuuri voidaan ymmärtää siis laajana kattokäsitteenä: yhtäältä kulloisellekin ihmisyyhteisölle ominaisina toimintatapoina ja toiminnan tuotteina sekä toisaalta yhteisön toimintaa ja järjestäytymistä määrittävänä ja selittävänä kontekstina.

■ 語句・文法

on ymmärrettävissä 「理解できる」(ymmärrettävissä [複内] < ymmärrettävä 受現分 < ymmärtää) / perustavanlaatuisesti 「根本的に」 < -laatuinen < laatu / olento 「存在」 < olla / ihmis-tiede 「人間科学」 / rinnastua 「比較できる、同等である、匹敵する」 < rinnastaa < rinta / väistämättä 「必然的に」 MA 不欠 < väistää / katto-käsite 「上位概念、包括的概念」 / yhtäältä 「一方では」 / kulloinenkin 「それぞれの時代の、時々の」 / ominainen 「特徴的な」 / toisaalta 「(もう) 一方では」 / järjestäytymistä 「組織化することを」 動名 [分] < järjestäytyä < järjestää < järki

● フィンランド語理解のための訳例

人間は理解することができる | 根本的に文化的な存在だと、| そのため、ある意味において、すべての人間科学はみなすことができる | 文化研究だと: | つまり、人間を研究するときには、| 研究していることになる | 必然的にまた | 文化や文化的現象を。| 文化はつまり理解することができる | 広範な包括的概念であると: | つまり、一方では、それぞれの時代の人間共同体に特徴的な | 行動様式として | そして行動の産物として | そして、一方では、共同体の行動と組織化を決定し説明する文脈として < 理解することができる >。

◎意識

人間は根本的に文化的な存在だと理解できるため、ある意味で、すべての人間科学は文化研究だと考えることができるだろう：つまり、人間を研究するという場合には、必然的にまた文化や文化的現象を研究しているということになるのである。したがって、文化は広範な意味をもつ包括的概念として理解することができる：それは、一方では、それぞれの時代の人間共同体に特有の行動様式や行動の産物だと理解できるだろうし、他方では、共同体の行動や組織化を規定し説明するための文脈として理解することができるだろう。

★補足

以上のように「文化」を理解したうえで、持続可能性を実現させるために何が必要なのかを考える必要があるでしょう。それでは、その問題へ移っていきましょう。

【7】持続可能性をめざすなら「文化」の変化が不可欠

Muutosta kohti kestäväää kehitystä ei tapahdu ilman kulttuurin muutosta. Kulttuuri koostuu jokaisen ihmisen tiedoista, taidoista, tavoista ymmärtää maailmaa ja niihin pohjautuvista toimista. Jos näissä ei tapahdu tavoitteellisesti kestävyteen tähtääviä muutoksia, kestävyys ei toteudu.

■語句・文法

koostua「～から成る、構成される」[+出] / pohjautuvista「もとづくような」能現分[複出] < pohjautua < pohja / tavoitteellisesti「目的をもって、意図的に」[副] < tavoitteellinen < tavoite / tähtääviä「狙うような、めざすような」能現分[複分] < tähdätä < tähti

●フィンランド語理解のための訳例

[変化は|持続可能な発展への]|起こらない|文化的な変化なしには。文化は構成される|[一人ひとりの知識、技能、世界を理解する方法により|そして、それらにもとづくような行動により]。もしこれらにおいて[起こらなければ|意図的に|持続可能性をめざすような変化が]、|<そうであれば>持続可能性は実現しない。

◎意識

持続可能な発展へ向けての変化は文化の変化なくしては起こりえない。文化とはそれぞれの人々の知識、技能、世界を理解する方法、そして、それらにもとづく行動から成り立つものである。もし、持続可能性をめざすような意図的な変化がそれら文化に起こらなければ、持続可能性が実現するようなことはない。

【8】環境保護が目を向けるべきは「文化」

Käytännössä esimerkiksi ympäristönsuojeluhankkeissa pitäisi huomio kiinnittää ympäristönsuojellisten arvojen ja tavoitteiden lisäksi myös kulttuurisiin systeemeihin, ihmisten arvoihin ja elämäntapoihin.

Laajimmassa merkityksessään kulttuurisella kestävyydellä viitataan kulttuuriseen evoluutioon. Tällöin kulttuurisella kestävyydellä tarkoitetaan muutosta arvoissa ja käytöstavoissamme kohti ekologisempia arvoja.

■ 語句・文法

hankkeissa「プロジェクトにおいて」[複内]< hanke < hankkia/pitäisi「～しなければならないだろう」[条] 現単 3 < pitää/kiinnittää huomio「注目を向ける」/suojellisten「保護の、保存の」[複属]< suojellinen < suojelu < suojella < suoja/elämän-tapoihin「生活様式へ」[複入]< -tapa/laajimmissa「もっとも広い」[複内]< laajin 最 < laaja/evoluutio「進化」/käytös-tavoissamme「我々の行動様式における」[複内]+複 1 所接 < -tapa/ekologisempia「よりエコロジカルな」[複分]< ekologisempi 比 < ekologinen

● フィンランド語理解のための訳例

実際には、たとえば環境保護プロジェクトでは注意を向けなければならない|環境保護的な価値や目標に加え|また文化体系へ|〈つまり〉人々の価値観や生活様式へも。

もっとも広い意味において|文化的持続可能性〈という言葉〉により言及される|文化的進化へ。この場合には、|文化的持続可能性〈という言葉〉により意味される|[変化が|価値観や我々の行動様式における|よりエコロジカルな価値観へ向けての]。

◎ 意訳

実際のところ、たとえば環境保護プロジェクトにおいては、環境保護をめざすような価値観や目標に目を向けるだけではなく、文化的な体系や人間の価値観、そして生活様式にも注意を向けなければならないだろう。

文化的持続可能性という言葉は、そのもっとも広い意味において、文化的進化に言及しているのである。この場合には、文化的持続可能性とは、価値観や我々の行動様式がより環境を大切にするような価値観へ向けて変化することを意味する。

【9】環境問題を解決するための文化的手段が必要

Ihmisen toiminta vaikuttaa sekä ihmistekoiseen että luonnon muovaamaan ympäristöön. Ihminen myös hyödyntää luonnonvaroja lähes kaikissa toimissaan – jopa siinä määrin, että ihmiskunta on toimillaan aiheuttanut suuria muutoksia luontoon. Ilmastonmuutoksen vahvistuminen, luonnon monimuotoisuuden vähentyminen, eroosio ja maaperän köyhtyminen, vesistöjen rehevöityminen ja saasteet ilmassa, vesistöissä ja maaperässä ovat seurauksia ihmisten toiminnasta. Ne nähdään aikamme suurina, maailmanlaajuisina ongelmina. Silloin kun niihin

halutaan puuttua, on hyvä tarkastella ihmistä ja kulttuuria luonnon kiertokulun ja ekosysteemien osana sekä eritellä ihmisen kulttuurisen toiminnan suhdetta luontoon. Näin voidaan tavoitella kulttuurisia keinoja ympäristöongelmien ratkaisemiseksi.

■ 語句・文法

ihmis-tekoiseen「人間の作った、人工的な」[入]<-tekoinen < teko < tehdä / luonnon muovaamaan「自然が形作るような」(muovaamaan [入]< muovaama 動分 < muovata) / hyödyntää「利用する」< hyöty / luonnon-vara「天然資源」 / siinä määrin, että ... 「…の程度に、…のほどに」 / ihmiskunta「人類」 / vahvistuminen「強まること」動名 < vahvistua < vahvistaa < vahva / vähentyminen「減ること」動名 < vähentyä < vähentää < vähä / eroosio「浸食」 / maaperä「土壌」 / köyhtyminen「貧しくなること」< köyhtyä < köyhä / vesistö「水域」< vesi / rehevöityminen「富栄養化すること」動名 < rehevöityä < rehevä / saaste「汚染(物質)」< saastaa / maa-ilman-laajuinen「世界規模の」 / puuttua「介入する」 / kierto-kulun「循環の」[属]<-kulku < kulkea / eritellä「分析する」<<< eri / keinoja「手段を」[複分]< keino / ratkaisemiksi「解決するために」[変]< ratkaiseminen 動名 < ratkaista

● フィンランド語理解のための訳例

人間の活動は|影響する|[人間の作り出すような|そして、自然の形作るような|環境へ]。人間はまた利用する|天然資源を|ほとんどすべての活動において|—〈次のような〉[程度にさえ|人類は自らの活動により|引き起こしてきた|大きな変化を|自然に]。気候変動が強まること、|自然の多様性の減ること、|浸食|そして土壌が貧しくなること、|水域が富栄養化すること|そして[汚染物質|空気中の、|水域の中の|そして土壌の中の]は[結果である|人間の行動から]。それらは見られる|我々の時代の|大きな、世界規模の問題だと。それらへ介入したいとき、|研究するのがよい|[人間を|そして文化を]|[自然の循環の|そして生態系の一部として]そして|分析する〈のがよい〉|[人間の文化的活動の関係を|自然への]。こうしてめざすことができる|文化的な手段を|環境問題の解決のために。

◎ 意識

人間の活動というものは、人間自らが作り出した環境と自然が形作る環境の両方に影響を与える。人間はまたほぼすべての活動において天然資源を利用している—それは、人類が自らの活動により自然に対して大きな変化を引き起こしてきたほどでさえある。気候変動の悪化、自然の多様性の消失、浸食や土壌の劣化、水域の富栄養化、そして空中、水中、土壌内における汚染物質の存在、これらはすべて人間の活動が生み出したものである。それらは、我々の時代における大きな、そして世界規模の問題だとみなされている。これらの問題に介入したいと望むのであれば、自然の循環や生態系の一部として人間と文化を研究し、人間の文化的活動がもつ自然との関係を分析すべきである。こうすることにより、環境問題を解決するための文化的手段を追求することができるだろう。

★補足

ここまで読み進んで、持続可能性の土台になるのが「文化」だということが理解できたでしょうか。もう少し明確に言えば、現在のような持続不可能な状況を生み出しているものが我々人間の文化なものですから、「文化が変化すること」が持続可能性の実現に不可欠だということだろうと思います。それでは、せっかくだので、もう少し「文化」そのものについて見ていきたいと思います。

【10】「持続可能な発展における文化」とは

Vuosina 2011–2015 toiminut monitieteinen tutkijoiden verkosto COST Action IS1007 Investigating Cultural Sustainability tuotti näkemyksen kulttuurisen kestävyuden kolmesta eri muodosta. Ensimmäisessä kulttuuri asetetaan kestävä kehityksen yhdeksi tasaveroiseksi ulottuvuudeksi alkujaan hahmotettujen ekologisen, sosiaalisen ja taloudellisen rinnalle (Culture in sustainable development). Sen mukaan alueen tai ryhmän kulttuurille, kuten taiteelle, kulttuuriperinnölle ja identiteetille, tavoitellaan itseisarvoista pitkäkestoisuutta.

■語句・文法

toiminut「活動したような」能過分 < toimia / moni-tieteinen「学際的な」 / verkosto「ネットワーク、網」 < verkko / COST Action IS1007 Investigating Cultural Sustainability European (COST は European Cooperation in Science and Technology の略) についてはサイトを参照 (<https://www.cost.eu/>) / kulttuuri asetetaan ... yhdeksi tasa-veroiseksi ulottuvuudeksi「文化は一つの同等の次元だと設定される」 / alkujaan hahmotettujen ekologisen, sosiaalisen ja taloudellisen rinnalle「もともと考えられていた生態的、社会的、経済的〈持続可能性〉と並んで」 (alkujaan「もともと、最初に」[複分]+ 単3 所接 < alku, hahmotettujen[複属] < hahmotettu 受過分 < hahmottaa < hahmo) / itseis-arvoinen「内在的価値の、本質的価値の」 < -arvo / pitkäkestoisuus「持続性」

●フィンランド語理解のための訳例

2011-2015 年に活動していた | 学際的な研究者たちのネットワーク | COST Action IS1007 Investigating Cultural Sustainability | もたらして | 見方を | 文化的持続可能性の 3 つの異なる形態について。最初の〈文化的持続可能性の〉中で | 文化は設定される | [持続可能な発展の一つの | 同等の | 次元として] | [もともと考えられていた | 生態的、社会的、経済的〈持続可能性〉と並んで] | (Culture in sustainable development「持続可能な発展における文化」)。それによれば | 地域の | あるいは集団の文化へ、 | 〈次の〉 [ような | 芸術へ、 | 文化的遺産へ | そしてアイデンティティへ]、 | 追及する | 内在価値的な | 持続性を。

◎意識

2011 年から 2015 年に活動した研究者たちの学際的ネットワークである”COST Action IS1007 Investigating Cultural Sustainability”は、文化的持続可能性のもつ 3 つの異なる形態についての考え方を生み出した。一つ目の文化的持続可能性において「文化」は、もともと考えられていた持続可

能性の 3 つの次元である生態的、社会的、経済的持続可能性と並ぶものとして位置づけられる（これは Culture in sustainable development「持続可能な発展における文化」と表現される）。このとらえ方によれば、芸術、文化遺産、アイデンティティのような地域、あるいは集団の文化について、その本質的な価値が持続することを追及することになる。

★補足

文化的持続可能性について、3 つに分類するという考え方が示されています。そのうちの一つ目が「持続可能な発展における文化（Culture in sustainable development）」です。これは、どちらかといえば狭義の文化に相当するものだろうと思います。たとえば、古い建築物のような文化遺産の保存が文化的持続可能性にとって重要だろうといった考え方です。

【11】「持続可能な発展のための文化」とは

Toiseksi kulttuuri nähdään välittäjänä muiden kestäväen kehityksen ulottuvuuksien välillä ja kestäväen kehityksen ajatuksen edistäjänä yhteiskunnassa esimerkiksi kulttuurisina ekosysteemi- tai hyvinvointipalveluina (Culture for sustainable development).

■語句・文法

välittäjänä「仲介者として」[様] < välittäjä < välittää < väli / edistäjänä「促進者として」[様] < edistäjä < edistää < esi- / kulttuurisina ekosysteemi- tai hyvinvointipalveluina「文化的な生態系および福祉サービスとして」(kulttuurisina [複様] < kulttuurinen、eko-systeemi-「生態系」、hyvinvointi-palveluina「福祉サービスとして」[複様] < -palvelu)

●フィンランド語理解のための訳例

二番目には|文化は見られる|[仲介者として|他の持続可能な発展の次元の間で]|そして持続可能な発展という考え方の促進者として|社会の中で|[たとえば|文化的な|生態系、あるいは福祉サービスとして](Culture for sustainable development「持続可能な発展のための文化」)。

◎意訳

二番目の「文化的持続可能性」においては、文化は他の持続可能な発展の次元の間における仲介者としてみなされ、あるいは、社会における持続可能な発展という理念の推進役とみなされるが、これは、たとえば文化的な生態系サービスや文化を重視する福祉サービスという形で実現される（これは Culture for sustainable development「持続可能な発展のための文化」と表現される）。

★補足

二番目の「持続可能な発展のための文化（Culture for sustainable development）」とは、たとえば、芸術作品を通じて生態的危機を知らしめることで、生態的持続可能性の実現に貢献するといったことだろうと思います。また、生態系サービスという言葉が出てきていますが、これについては、資料

Ⅲ-1で触れた際に参考にした引用をあらためて掲載しておきます。

国際連合の提唱した「ミレニアム生態系評価」では、生物多様性は生態系が提供する幸せな暮らしに欠かせない生態系サービスの基盤であり、以下の4つの機能に分類しその意義について紹介している。

- ・供給サービス(食料、燃料、医薬品、水など、人間の生活に重要な資源を供給するサービス)
- ・調整サービス(大気・水質汚染や気候変動、病虫害発生の調整など人間社会に対する影響を緩和するサービス)
- ・文化的サービス(生態系がもたらす精神面、文化面での豊かさを提供するサービス)
- ・基盤サービス(上記3つのサービスの供給を支えるサービスで、エネルギーや物質の循環など)

エネルギーや物質の循環を支えるという側面から精神や文化に至るまで、生物多様性は私たちの暮らしに不可欠なものである。(中村智晴, 2012, 『競争からきょうせいの社会へー自然のメカニズムから学ぶ』, 北樹出版, p.3)

ここで生態系サービスの中に「文化的サービス」が含まれていますが、たとえばリクリエーションや観光などといった形で自然が我々に与えてくれるサービス、あるいは芸術活動に対して自然が何らかのインスピレーションを与えてくれるようなことを、【11】では kulttuurinen ekosysteemipalvelu「文化的な生態系サービス」としているのだと思います。

さらに kulttuurinen hyvinvointipalvelu「文化的な福祉サービス」という表現が出てきますが、これは、たとえば高齢者福祉においては介護や食事の世話だけが福祉サービスなのではなく、精神的な満足度を高めるような文化的なサービスも重要だという考え方を反映したものだと思います。「福祉に文化を」、あるいは「福祉より文化を」といった言葉もありますが、福祉サービスにおいて文化の果たす役割も重要です。

【12】「持続可能な発展としての文化」とは

Kolmanneksi kulttuuri nähdään transformaationa kestävään kehitykseen (Culture as sustainable development) eli prosessina, jolla on ekologisesti kestävämpään maailmaan vievä arvopohja ja joka tukee ihmisen, kulttuurin ja luonnon hyvinvointia uudessa muodossa, ekokulttuurisena sivilisaationa.

■ 語句・文法

kolmanneksi「3番目に」[変]<kolmas<kolme/transformaationa「変質として、変容として」[様]<transformaatio/prosessina「過程として、プロセスとして」[様]<prosessi/kestävämpään「より持続可能な」[入]<kestävämpi 比 <kestävä<kestää/maa-ilmaan vievä「世界へ導くような、連れていくような」(vievä 能現分 <viedä) /arvo-pohja「基本的価値観、価値基準」/eko-

kulttuurinen「環境文化的な、生態文化的な」(ここでは「環境と文化との間には密接な関係があることを認識したような」といった意味で使われていると思います)／sivilisaatio「文明」

●フィンランド語理解のための訳例

三番目に|文化は見られる|[変容として|持続可能な発展へ]|(Culture as sustainable development「持続可能な発展としての文化」)|言い換えれば|過程として、|[それにはある|生態的に|より持続可能な世界へ|連れていくような価値基準]|そして|[それは支援する|人間の、文化の、そして自然の|福祉を|新しい形で、|環境文化的な文明として]。

◎意訳

三番目の「文化的持続可能性」における文化とは、持続可能な発展への変容(Culture as sustainable development「持続可能な発展としての文化」と表現される)としてみなされる。その過程は、生態的により持続可能な世界へと導くような価値基準をもつものであり、環境と文化の間には密接な関係があるということ認識する新しい形態の文明において、人や文化、そして自然の福祉を支援するものと理解される。

★補足

おそらく文化的持続可能性の中でもっとも重要なのが三番目の「持続可能な発展としての文化(Culture as sustainable development)」なのだろうと理解できます。つまり、我々の価値観、行動様式、生活様式など「文化」の変化そのものが持続可能な発展であり、それこそがすべての持続可能な発展の基盤になるものだということです。そうであれば、持続可能な発展の実現にとって何よりも重要なことは「文化」が変化・変容するということだということになります。

【13】文化は人間を、そして人間は文化を導く

Kulttuurin dynaamisessa luonteessa piilee sen muutosvoima; kulttuuri yhtäältä ohjaa inhimillistä toimintaa, mutta toisaalta inhimillinen toiminta ohjaa kulttuuria.

■語句・文法

dynaamisessa「動的な、ダイナミックな」[内]< dynaaminen／luonteessa「性格において」[内]< luonne < luonto < luoda／piillä「隠れている」／yhtäältä「一方で」／ohjata「導く、指示する」⇒ ohje／toisaalta「(もう)一方で」

●フィンランド語理解のための訳例

文化の動的な性質の中には隠れている|その変容力が;文化は一方では[導く|人間的な活動を]、|しかし、もう一方では|[人間的活動は導く|文化を]。

◎意訳

文化のダイナミックな性質の中には、その変容力が隠されている。一方で文化は人間の行動を導くものであるが、他方で人間の行動が文化を導くのである。

【14】文化は「継続性」と「創造性」をあわせもつ

Välittäessämme perinteitä toisillemme luomme niitä myös jatkuvasti uusiksi: otamme niitä omaksi, kiistämme niitä, muokkaamme niistä itsellemme sopivia ja hylkäämme niitä. Jokaisen ihmisen havainnot, tunteet, toimet ja arvot vaikuttavat tähän omalta osaltaan. Samalla perinteiden virta ohjaa jokaisen ihmisen toimintaa. Perinteissä – ja siten myös kulttuurissa ylipäänsä – on yhtäaikaaisesti läsnä sekä jatkuvuutta että uuden luomista. Näiden keskinäinen suhde vaihtelee eri yhteyksissä. Monesti perinteistä huomataan vain jatkuvuus eikä lainkaan niiden muutosvoimaa.

■ 語句・文法

välittäessämme「我々が仲介するときに」e 不[内] + 複 1 所接[時構] < välittää / toisillemme 「我々おたがいへ」[複向] + 複 1 所接 < toinen / ottaa omaksi 「自分のものとする」 / kiistaa 「否定する」 ⇒ kiista / muokata 「作り直す」 / sopivia 「より適切なものを」[複分] < sopiva 能現分 < sopia / hylkäämme 「捨てる、拒絶する」 < hylätä / havainto 「観察、認識」 < havaita / omalta osaltaan 「それぞれに」 / virta 「流れ」 / yli-päänsä 「一般的に、全般的に」 = yli-päätä-än / yhtäaikaaisesti 「一時に、同時に」 < -aikainen / läsnä 「同席して、出席して」 / jatkuvuus 「継続性」 < jatkuva < jatkua < jatkaa / luomista 「作ること」[分] < luominen 動名 < luoda / eri yhteyksissä 「さまざまな場面で、さまざまな関係において」(yhteyksissä[複内] < yhteys < yksi)

● フィンランド語理解のための訳例

我々が[仲介するとき|伝統を|我々おたがいへ]|我々は[創り出す|それらから|またたえず|新しいものへ]:|我々はそれらを自分のものにする、|それらを否定する、|[それらから作り直す|自分たち自身へ|適切なものを]|そしてそれらを捨てる。それぞれの人間の認識、感情、行動、そして価値観は影響する|これへ|それぞれに。同時に|伝統の流れは導く|それぞれの人間の活動を。伝統の中には|—そして、そうしてまた|文化の中には|一般的に|—同時に存在している|継続性と新しいものを創造することが。これらのたがいの関係は|変化する|さまざまな場面において。多くの場合|伝統から[気づく|ただ継続性だけを]|そして[<気づか>ない|まったく|それらの変容力を]。

◎ 意訳

私たちがおたがいに向けて伝統を伝え合うときに、私たちはそれら伝統をたえず新しいものへと創造しなおしているのである:つまり、私たちはそれらを自分のものとし、それらを否定し、自分たちにとって適切なものへと作り変え、そして、それらを捨て去るのである。各々の人間の認識や感情、行動、そして価値観それぞれが、この過程に影響を与える。そして同時に、伝統の流れはそれぞれの人間の活動を導くのである。伝統の中には—そして、そもそも文化の中には—継続性というものと新しいものを創造するということが同時に存在しているのである。これら二つの間の関係はさまざまな場面において変化する。しかしながら多くの場合、伝統の中に継続性が存在することには注目するのだが、伝統の中に存在する変容力には気づかないものである。

★補足

【14】の中にもあるように、文化は「継続性」というものと「創造性」というものを含んでいる点が重要です。つまり、文化はすでに存在しているものでありながら、新たに（再）創造されていくものなのです。それは次の【15】にあるように、「構造」と「過程」という言葉で表現することもできます。

【15】文化は「構造」であり「過程」でもある

Toisaalta se määritellään suhteellisen pysyväksi sosiaalista toimintaa ohjaavaksi rakenteeksi, toisaalta sosiaalseksi prosessiksi, jossa kulttuurin eri piirteitä uudistetaan ja luodaan jatkuvasti sekä ihmisten keskinäisessä että ihmisten ja heidän ympäristönsä välisessä vuorovaikutuksessa.

■語句・文法

suhteellisen「比較的」[属] < suhteellinen < suhde / pysyväksi sosiaalista toimintaa ohjaavaksi rakenteeksi「社会的活動を導くような持続的な構造として」(pysyväksi[変] < pysyvä 能現分 < pysyä, ohjaavaksi[変] < ohjaava 能現分 < ohjata) / uudistetaan「革新される」受現 < uudistaa < uusi / vuoro-vaikutuksessa「相互作用の中で、交流の中で」[内] < -vaikutus < vaikuttaa

●フィンランド語理解のための訳例

一方で|それ<=文化>は定義される|比較的持続的な|社会的活動を導く構造として、|一方で|社会的な過程として|そこでは文化のさまざまな特徴は|革新され|そして創造される|継続的に|[人間同士の|そして人間と彼らの環境の間の|相互作用の中で]。

◎意識

一方で、文化は、社会的活動を導くような比較的持続的な構造として定義されるが、もう一方では、人間どうしの相互作用、あるいは人間とその環境の間における相互作用の中で、文化のさまざまな特徴が継続的に更新され創造されるような社会的な過程として文化は定義される。

★補足

次の【16】では、文化のもつ継続性と創造性、構造と過程とほぼ同じことを、puitteet「枠組み」と virta「流れ」という語で表現していると思われます。

さて、私は「文化は変化・変容する」などと書いてしまいましたが、この書き方には問題があるかもしれません。むしろ「文化を変化・変容させる」と書くべきだろうと思います。なぜなら「文化」とは我々人間が創造し伝承していくものだからです。ここで問題となるのは「我々人間」です。ここには誰が含まれることになるのでしょうか。その問題について読み進めていきましょう。

【16】文化は「枠組み」であり「流れ」でもある

Monesti halutaan korostaa ihmisten oikeutta säilyttää oma kulttuurinsa sellaisena kuin se on, mikä menneisyyden jatkuvuutta korostamalla vaikuttaa epäsuorasti tulevaisuuteen. Kulttuuri määrittyy silloin säilytettävänä puitteina. Kun asiaa katsotaan väistämättä muuttuvan kulttuurin virran näkökulmasta, jokaisen ihmisen kulttuurisen itsemäärittämisen kannalta keskeisemmäksi nousee heidän oikeutensa osallistua omaksi kokemansa kulttuurin muutoksen määrittämiseen. Tämä on määritelmässäni keskeisin kulttuurisen kestävyuden toteuttamisen menetelmä.

■ 語句・文法

sellaisena kuin se on「あるがままに、ありのままに」／mikä「そのことは」[関代]（前の節の内容全体を受けています）／menneisyyden jatkuvuutta korostamalla「過去の継続性を強調することにより」（korostamalla MA不[接]<korostaa）／epä-suorasti「間接的に」／määrittyä「特定される」<määrittää／säilytettävänä puitteina「維持されるべき枠組みとして」（säilytettävänä[複様]<säilytettävä 受現分 < säilyttää < säilyä、puitteina[複様]< puite）／väistämättä「必然的に、避けられずに」MA不[欠]< väistää／muuttuvan kulttuurin virran「変化する文化の流れの」（muuttuvan[属]< muuttuva 能現分 < muuttua、virran[属]< virta）／itse-määrittämisen「自己決定の」[属]< -määrittäminen 動名 < määrittää／keskeisemmäksi nousee「より中心的なものとして上がってくる」（keskeisemmäksi[変]< keskeisempi 比 < keskeinen）／omaksi kokemansa「自分のものだと感じるような」（kokemansa[属]+ 複₃所接 < kokema 動分 < kokea）／keskeisin「もっとも中心的な」最 < keskeinen

● フィンランド語理解のための訳例

何度も|強調したいと考える|人間の[権利を|維持する|自らの文化を|あるがままに]、|そのことは|過去の継続性を強調することにより|[影響する|間接的に|未来へ]。文化は特定される|そのときには|維持されるべき枠組みとして。[物事を見るとき|必然的に変化する文化の流れの|視点から]、|[それぞれの人間の|文化的な|自己決定の|観点から]|より中心的なものとして上がってくる|彼らの[権利が|参加する|自分のものだと感じるような|文化の|変化の|特定することへ]。これは～である|私の定義においては|もっとも中心的な|文化的持続可能性の|実現することの方法。

◎ 意訳

自らの文化をあるがままに保存しようとする権利はしばしば強調されるが、このことは、過去の継続性というものを強調することによって間接的に将来に影響を与えていることになる。この場合には、文化は保存されるべき枠組みとして定義されることになる。一方で、文化は必然的に変化する流れであるという視点から問題を眺めれば、自らのものだと感じる文化の変化を決定することに参加する権利というものが、それぞれの人間の文化的自己決定にとってより中心的なものとして浮かび上がってくる。私の定義においては、文化的持続可能性を実現するもっとも中心的な方法とは、このよう

なことなのである。

【17】行為主体性と文化の変容力を統合しなくてはならない

Metodologiaa tulisi kehittää sellaiseksi, että se tukisi toimijuuden ja kulttuurin muutosvoiman sisällyttämistä kulttuuriperintöön. Keskeinen huomio ei silloin olisi itse kulttuuriperinnössä, vaan ihmisissä ja luonnossa, joihin sillä on vaikutus. Näin menetelmän avulla voisi suunnata kulttuurista transformaatiota kohti ekologisesti kestävästä maailmasta.

■ 語句・文法

metodologia「方法論、手法」／kehittää sellaiseksi, että ... 「…のようなものへと発展させる」／
toimijuuden「行為者性の、行為主体性の、エージェント性の」< toimija < toimia < toimi／
sisällyttämistä「含めることを」[属対]< sisällyttäminen < sisällyttää < sisältyä < sisä-／joihin「それらへ」[複入]< joka／sillä「それには」[接]< se (kulttuuri-perintöのことをさすと思います)／

● フィンランド語理解のための訳例

方法論を|しなければならぬだろう|<次のようなものへ>発展させる|それは支援するだろう|
[行為主体性の|そして文化の|変容力の|含めることを|文化遺産へ]。中心的な注意は|そのとき
にはないだろう|文化遺産自身の中に、|<そうではなく>人間の中に|そして自然の中に、|それらに
たいして|それ<=文化遺産>には影響がある。こうして|方法の助けで|向けるだろう|文化的変容を
|<次へ> [向けて|生態的に持続可能な世界]。

◎ 意訳

文化遺産というものをどのようにとらえるのかという問題に関する方法論は、行為主体性と文化の変容力を文化遺産へと統合することを支援するものへと発展させるべきである。その場合には、文化遺産そのものではなく、その文化遺産が影響を与える人間や自然に中心的な焦点を当てることになる。このような方法により、生態的に持続可能な世界へ向けて文化的変容を導くことができるだろう。

★ 補足

これらの文章によれば、文化の変化・変容について決定するのは、その文化を自分のものだと感じている人々です。それは重要な権利であり、だからこそ「行為主体性」、つまり我々が文化の変化・変容に対して主体的に関わり行動していくことが重要だといっています。

ここで思い出すのがNils Aslak Valkeapääの主張です。サーミン人芸術家であるValkeapääの主張については、資料 I-3で取り上げました(「生きている文化を殺すな」と彼はしていました)。よく考えてみると、Valkeapääの主張は今回の資料で勉強していることをほぼすべて含んでいたことがわかります。つまり、Valkeapääは「文化は変化するもの」だということと「その変化を決定するのは多数派ではなく、その文化を自分のものだと感じる人々だ」と主張していました。そう考えると、Valkeapääという芸術家の偉大さがあらためてわかる気がします。

【18】文化が変化する方向を決定することは基本的な人権である

Kulttuurisen muutoksen suunnan määrittämisessä on keskeistä, että jokaisella ihmisellä on oikeus itselleen tärkeän kulttuurisen ympäristön määrittämiseen. Kyse on perustavista ihmisoikeuksista.

■ 語句・文法

määrittämisessä「特定することにおいて」[内]< määrittäminen 動名 < määrittää/perustavista ihmis-oikeuksista「基本的な人権について」[複出]< perustava ihmis-oikeus

● フィンランド語理解のための訳例

[文化の変化の方向の|決定することにおいて]|中心である|〈次の〉ことが|[それぞれの人に権利がある|自分自身にとって|重要な文化的な環境の|決定することへ]。問題となるのは~である|基本的な人権について。

◎ 意識

文化が変化する方向を決定することにおいて中心となることは、自分にとって重要な文化的環境を決定することに対する権利をすべての人が有しているということである。ここで問題となっているのは基本的な人権である。

【19】文化は集団の協同により変化し持続する

Kulttuurin perustava muutosvoima on siis keskeinen silloinkin, kun tavoitteena on kulttuurin kestävyys. Kulttuuri kestää, kun sitä muutetaan yhteisvoimin.

■ 語句・文法

muutetaan「変えられる」受現 < muuttaa/yhteis-voimin「協同して、協力して」(voimin [複具]< voima)

● フィンランド語理解のための訳例

文化の基本的な変容力は|つまり|中心である|〈次のような〉ときにも|[目標としてある|文化の持続可能性が]。文化は持続する、|それが変えられるときに|協同して。

◎ 意識

つまりは、目標とされているのが文化の持続可能性であっても、文化のもつ基本的な変容力というものが重要である。文化というものは、それを協同して変化させるときにこそ持続するものなのである。

★ 補足

文化が変化する方向を決定するのは基本的人権だといっています。人権というものは、人が人であるということだけを根拠に享受すべき権利ですので、基本的には個人が有しているものです。一方、

【19】の文章を読み「文化」というものの本質について考えると、少し難しい問題が出てきます。それは、「人権」は個人のものであるのに対して、「文化」は集団が創り出し共有するものだからです。

【20】文化的持続可能性の実現は緊張関係の中での作業となる

Tämä on yksi kulttuurisen kestävyuden kulmakivistä. Kyse on perustavista ihmisoikeuksista oman maailmankuvan määrittämiseksi. Tämä saattaa kuitenkin olla ristiriidassa esimerkiksi ekologisen kestävyuden vankistamisen kanssa, jos osallakin ihmisistä on tavoitteenaan epäekologisten tapojen jatkaminen tai vahvistaminen. Työ kokonaiskestävyyden saavuttamiseksi onkin uusien, kestävien toimintatapojen kulttuurista määrittämistä osin jännitteisessä inhimillisten toiveiden, sosiaalisen ja kulttuurisen tasa-arvon ja luonnon kantokyvyn kentässä. (Siivonen 2017.)

■ 語句・文法

kulma-kivistä「礎石のうち、礎のうち」[出]< -kivi / määrittämiseksi「特定するための」[変]< määrittäminen 動名 < määrittää / risti-riidassa「対立して、矛盾して」[内]< -riita / vankistamisen「堅固なものにするの、頑強なものにするの」[属]< vankistaminen 動名 < vankistaa = vankentaa < vankka / osalla ihmisistä「人々のうち一部に」/ epä-ekologinen「反生態的な、エコではないような」/ saavuttamiseksi「達成するための」[変]< saavuttaminen 動名 < saavuttaa < saapua / toiminta-tapojen「行動様式の」[複属]< -tapa / osin「部分的に」[複具]< osa / jännitteisissä「緊張した、張り詰めた」[複内]< jännitteinen < jännite < jännittää < jänne / kanto-kyvyn「(環境)収容力の」[属]< -kyky / kentässä「分野において、フィールドにおいて」[内]< kenttä

● フィンランド語理解のための訳例

これ<=自分にとって重要な文化的環境を決定することに対する権利をすべての人が有しているということ>は一つである|文化的持続可能性の基盤のうち。問題は~である|[基本的な人権について|自分の世界像を特定するための]。これはしかしながら対立するかもしれない|たとえば|[生態的持続可能性を|堅固なものにするのと]、|[もし人々のうちの一部にでもあれば|目標として|[反生態的な習慣を|続けること|あるいは強めること]。[作業|総合的持続可能性を|達成するための]~である|[新しい、持続可能な行動様式の|文化的な|特定すること]|一部では[緊張関係にあるような|人間的な希望の、|社会的、そして文化的平等の|そして自然の環境収容力の|分野において]。

◎ 意識

自分にとって重要な文化的環境を決定することに対する権利をすべての人が有しているということは、文化的持続可能性の基盤となるものの一つである。ここで問題となるのは、自分の世界像を決定するための基本的な人権である。しかし、このことは、もし人々のうちの一部であっても反生態的な習慣を継続し強化することを目標とするのであれば、生態的な持続可能性を強固なものにするということと対立することになるかもしれない。総合的な持続可能性を達成するための作業とは、持

続可能な行動様式というものをあらためて文化的に特定することであるが、それは一部では、人間的な欲望、社会的・文化的平等、そして自然のもつ環境収容力がおたがいに緊張関係にあるような状況の中での作業となる。

★補足

反生態的な主張をすることも「人権」だとすれば、はたしてどうすればよいのでしょうか。私にわかるはずはありません。わかるはずはないのですが、考えはしなければなりません。これについては、次に予定している資料Ⅲ-5の中で、十分とはいえないと思いますが、検討する努力だけはしたいと思います。ここでは、環境政策の問題へ進んでいきます。

【21】なぜ環境政策はうまく行っていないのか

Ensinnäkin, ympäristö- ja alueellisessa kehityspolitiikassa on havaittu, että luonnontieteisiin, teknologiaan ja talouteen nojaavat sekä ylhäältä alas (top-down) -periaatteella toteutetut ohjelmat eivät useinkaan ole johtaneet toivottuun kehitykseen esimerkiksi luonnon monimuotoisuuden säilyttämisessä tai köyhyyden ja epäarvoisuuden vähentämisessä. Epäonnistumiset voivat johtua siitä, että aina ei ole ymmärretty paikallisen luontosuhteen tai toimintatapojen kulttuurista luonnetta. Toimintatapoja voidaan hetkellisesti muuttaa joidenkin ohjelmien ja taloudellisen tuen myötävaikutuksella, mutta ne eivät välttämättä nivoudu osaksi paikallista arjen kulttuuria. Mikäli ympäristö- ja kehitysohjelmat eivät riittävästi ota huomioon paikallista kulttuuria, niiden tavoitteiden saavuttaminen voi olla epätodennäköistä.

■ 語句・文法

ensinnä(kin)「まず、最初に」= ensiksi/kehitys-politiikka「開発政策」/on havaittu「気づかれている」受完 < havaita/luonnon-tieteisiin, teknologiaan ja talouteen nojaavat「自然科学へ、科学技術へ、そして経済にもとづくような」(nojaavat「もとづくような」[複主]< nojaava 能現分 < nojata) /ylhäältä alas (top-down) -periaatteella toteutetut「上から下へ(トップダウン)の原則により実現されたような」(toteutetut「実現されたような」[複主]< toteutettu 受過分 < toteuttaa) /toivottuun kehitykseen「望まれていた発展へ」[入]< toivottu kehitys (toivottu 受過分 < toivoa) /säilyttämisessä「維持することにおいて」[内]< säilyttäminen 動名 < säilyttää < säilyä/epäarvoisuuden「不平等の」[属]< -arvoisuus < -arvoinen < arvo/epä-onnistumiset「失敗」[複主]< -onnistuminen 動名 < onnistua < onni/johtua siitä, että ~「~による、~によって引き起こされる」/ei ole ymmärretty「理解されていない」受完否 < ymmärtää/joidenkin「ある~、いくつかの」[複属]< jokin/myötä-vaikutus「貢献、影響」/välttämättä「必ずしも」MA 不[欠]< välttää/nivoutua「絡む、絡み合う」/osaksi paikallista arjen kulttuuri「現地の日常の文化の一部へ」(osa「部分」は分格をしたがえ「~の一部」という意味を表します) /epä-toden-näköinen「ありそうもない、可能性の低い」⇔ toden-näköinen

●フィンランド語理解のための訳例

まず、環境政策や地域開発政策において|気づくことになった|[自然科学に、|科学技術に|そして経済にもとづくような|そして上から下へ(トップダウン)の原則により|実施されたプログラムが]|
[しばしば導いてこなかったことに|望まれるような発展へ|たとえば自然の多様性を保全することにおいて|あるいは貧困や不平等を減らすことにおいて。]失敗は<次のことに>起因する可能性がある|
|[必ずしも理解されていないことに|現地の自然との関係や行動様式の文化的性格が]。[行動様式は一時的には変えることはできる|何らかのプログラムや経済的援助の貢献により、]|しかし、[それらは必ずしもならない|一部とは|現地の日常の文化の]。[環境と開発のプログラムが十分に考慮に入れない限り|現地の文化を、]|それらの目的を達成することは可能性が低いだろう。

◎意訳

まず、自然科学、科学技術、そして経済にもとづくような上から下への、つまりトップダウンの原則により実施されるプログラムが、環境政策や地域の開発政策において、たとえば自然の多様性の維持や貧困・不平等の削減などについてしばしば望ましい発展へと導いてこなかったということが明らかになっている。このような失敗は、現地の人々の自然との関係や、あるいは行動様式の文化的側面が必ずしも理解されていなかったということが原因となっている可能性がある。何らかのプログラムや経済的支援の貢献により、人々の行動様式を一時的に変えることはできるかもしれないが、それは必ずしも現地の人々の日常の文化の一部となるわけではない。環境や開発に関するプログラムが現地の文化を十分に考慮に入れなければ、自らの目標を達成する可能性は低いといえるかもしれない。

★補足

これまでの環境政策が必ずしも期待されるような結果を生み出してこなかった原因は、それが文化に目を向けてこなかったことにあるといっています。たとえば、我々自身の欲望がさらにさらにと大きくなるままに任せておく一方で、技術の生み出した危機は新たな技術を開発することで乗り越える、といった発想ではだめだろうといっているような気がします。それでは、あらためて問題を確認しておきましょう。

【22】文化を望ましい形へと刷新することに価値を置くべき

Kun kulttuurisessa kestävydessä huomio kohdistetaan kulttuurin muutosvoimaan, oleellista ei ole kulttuuriperinnön suojelu ja säilyttäminen, vaan vaihtuvien ja muuntelevien perinteiden tukeminen sekä erilaisten ja eri tahoilta tulevien ihmisten kunnioittaminen. Tällöin kulttuurisessa kestävydessä on ensisijaista, että kaikilla on oikeus määrittää kulttuurin muutosta tasaveroisesti. Silloin annetaan arvo yksilöllisille, heterogeenisille ja muuntuville perinteille ja kulttuurin toivotulle uudistamiselle, ei ainoastaan kulttuuriperinnön jatkuvuudelle. Perinteet elävät ja muuntuvat ihmisten välisessä vuorovaikutuksessa. Siten perinteiden harkitun ja tavoitteellisen muuttamisen keinoina voivat olla kulttuurista vuorovaikutusta ja ihmisten keskinäistä arvostusta edistävät toimet ja tavoitteena ihmisoikeuksien entistä parempi turvaaminen.

■ 語句・文法

kohdistetaan「向けられる」受現< kohdistaa < kohde／vaihtuvien ja muuntelevien perinteiden「変化し、変容する伝統の」(vaihtuvien[複属]< vaihtuva 能現分 < vaihtua < vaihtaa、muuntelevien「変容するような」[複属]< muunteleva 能現分 < muunnella < muuntaa < muu)／tahoilta「方面から」[複奪]< taho／annetaan arvo「価値を与える」(annetaan 受現 < antaa)／tulevien「来るような」[複属]> tuleva 能現分 < tulla／kunnioittaminen「尊重すること」動名 < kunnioittaa < kunnia／ensi-sijainen「第一の、最優先の」／yksilöllinen「個々の、個人の」／heterogeeninen「異質の」／muuntuville「変容するような」[複向]< muuntuva 能現分 < muuntua < muuntaa < muu／toivotulle「望まれるような」[向]< toivottu 受過分 < toivoa／harkitun「よく考えられたような」[属]< harkittu 受過分 < harkita／kulttuurista vuoro-vaikutusta ja ihmisten keskinäistä arvostusta edistävät「文化的相互作用と人間相互の評価をうながすような」(keskinäinen「おたがいの」、arvostus「(積極的)評価、尊重」< arvostaa < arvo／entistä parempi「以前よりもよい」(entistä[分]< entinen)

● フィンランド語理解のための訳例

〈次の〉ときに|[文化的持続可能性において|注意が向けられる|文化の変容力へ]、|本質的なのは~でない|文化遺産の保護や維持、|〈そうではなく〉[変化し変容する伝統を|支援すること]|そして|[異なる|そして異なる方面から来る人々を|尊重すること]。このとき|文化的持続可能性において|第一である、|〈次の〉ことが|すべての人に[権利がある|特定する|文化の変化を|同等に]。そのとき|価値が与えられる|[個々の|異質な|そして変容する伝統へ]|そして[文化の望まれるような|刷新することへ]、|ただ文化遺産の継続性へだけではなく。伝統は生きている|そして変容する|人々の間の相互作用において。そうして[伝統の|よく考えられた|そして意図的な|変化させることの手段として]|あるだろう|[文化的相互作用と人間相互の評価をうながすような行動]|そして目標として〈あるだろう〉|人権を|以前よりもよい|保障すること。

◎ 意訳

文化的持続可能性において文化がもつ変容力に注意を向ける場合に、本質的なことは文化遺産を保護し保存することではなく、変化し変容する伝統を支援することであり、また異なる、そしてさまざまな場所からやって来る人々を尊重することである。この場合、文化的持続可能性において最優先されるべきは、誰もが文化的変化を決定する権利を同等に有しているということである。そのときには、文化遺産のもつ継続性だけではなく、個々の、それぞれ異なる、そして変容する伝統に価値が与えられるのであり、文化を望ましい形へと刷新することに価値が置かれるのである。伝統は人々の交流の中で生き、そして変容する。したがって、伝統を慎重に、かつ目的をもって変化させる手段となるのは、文化的な交流や人間相互の尊重を促進する行動であり、目標となるのはこれまで以上に人権を保障することである。

★補足

さて、今回は理論的な話に終始してしまっています。そこで、「森と湖の国フィンランド」というくらいですので、森林について文化的持続可能性という観点から考える文章を少し見ていくことにします。しかし、話の中心はやはり理論的なものです。ご勘弁を。

【23】森林を文化的持続可能性という観点から見なければならない

Metsää tulisi aiempaa vahvemmin tarkastella myös kulttuurisen kestävyiden näkökulmasta. Metsät luovat puitteita ihmisen toiminnalle, ja ihminen muodostaa erilaisia toimintatapoja, käytäntöjä ja suhteita metsiin. Jokainen tuo oman yksilöllisen metsäsuhteensa osaksi yhteisesti jaettua metsäkulttuuria ja omaksuu ryhmän yhdessä muokkaamia toimintatapoja, arvoja ja käsityksiä. [...]

Kulttuurinen kestävyys edellyttää, että kulttuurinen jatkumo ei katkea, ja metsien käyttöön liittyvät tavat, käytännöt ja suhteet siirtyvät seuraaville sukupolville aikaan sopivassa muodossa. Metsäkulttuuri on aikaan sidottu jatkuva prosessi, joka kehittyy ihmisten toiminnan tuloksena.

■ 語句・文法

tulisi「しなければならないだろう」[条] 現単 3 < tulla / aiempaa vahvemmin「以前よりも強く」(vahvemmin [副] 比 < vahva) / osaksi yhteisesti jaettua metsäkulttuuria「共通に分けられる森林文化の一部として」(jaettua [分] < jaettu 受過分 < jakaa) / omaksua「自分のものにする、受け入れる、採用する」< oma / ryhmän yhdessä muokkaamia toiminta-tapoja「集団と一緒に修正する行動様式を」(muokkaamia [複分] < muokkaama 動分 < muokata) / jatkumo「連続、連続体」< jatkua < jatkaa / ei katkea「途切れない」< katketa / liittyvät「結びつくような」[複主] < Liittyvä 能現分 < liittyä < liittää / aikaan sopivassa muodossa「時代に適した形で」(sopivassa [内] < sopiva 能現分 < sopia) / aikaan sidottu「時間に縛りつけられたような」(sidottu 受過分 < sitoa) / jatkuva「継続的な」能現分 < jatkua / tuloksena「結果として」[様] < tulos < tulla

● フィンランド語理解のための訳例

森を|しなければならないだろう|以前よりも強く|検討する|また文化的持続可能性の視点から。森は創り出す|[枠組みを|人間の行動へ]、そして人間は作り出す|さまざまな行動様式を、|慣習を|そして[関係を|森へ]。誰もがもたらす|自分の個人的な森との関係を|[一部として|共通に分けられた森林文化の]|そして自分のものとする|[集団と一緒に修正する行動様式を、|価値を|そして理解を]。[...]

文化的持続可能性は前提とする|〈次の〉[ことを|文化的連続体は途切れない、|そして[森の利用へ|結びつくような|習慣、|慣習|そして関係]|移る|次の世代へ|時代に適した形で。森林文化は~である|[時代に縛りつけられた|継続的な|過程]、|それは発展する|人々の行動の結果として。

◎ 意識

森林は以前よりも強く文化的持続可能性の観点から検討する必要があるだろう。森林は人間の行動の枠組みを作り出し、一方で人間はさまざまな行動様式や慣習、そして森林との関係を生み出していく。誰もが自分自身の森林との関係というものを、集団が共有する森林文化の一部として持ち込み、そして集団が協同で作り変えていく行動様式、価値観、そして概念を自分のものとしていく。

文化的持続可能性は、文化のもつ連続性が途切れないということを前提とするものであり、さらに森林の利用に関係する習慣や慣習、あるいは森林との関係が時代に適した形で次の世代へ引き

継がれるということをも前提とするものである。森林文化は、それぞれの時代にとらわれた継続的な過程であり、それは人間の行動の結果として発展していくのである。

【24】人間の森林との関係は自然が設定する限界の中で機能しなければならない

Kestävän kehityksen transformaatioissa metsäsuhde on aineellisen ja aineettoman kulttuurin yhdistävää tulevaisuusperintöä, jossa metsiin liittyvistä tiedoista, taidoista, maailmankuvasta ja toiminnoista kiteytetään yhteisvoimin sellaisia merkityksellisiä metsäsuhteen muotoja, jotka johtavat maapallon kantokyvyn rajoihin asettuvaan ihmistoimintaan suhteessa metsiin. Tätä tukee kulttuurisen metsäsuhteen ymmärtäminen luonnon rajoissa toimivana luonnon osana.

■ 語句・文法

yhdistävää「結びつけるような」[分] < yhdistävä 能現分 < yhdistää < yksi / tulevaisuus-perintö「将来遺産」(この文章の筆者は tulevaisuus-perintö について、「生きた非物質的な文化遺産の主要な特徴である世界観、知識、技能、そして行動にもとづくものであり、過程に注目し、共同作業的で、新しい種類の未来を構築するよう先を見通すような文化的手段として構築されるものであり、このような手段の助けによって生態社会(主義)的な文明というものを追求することができるのである」[Siivonen 2020: 16]と述べています。ここでは、森林に結びつくような人間の知識・技能・世界像・行動が森林との関係を常に変化させていく中で、人間の活動が環境の収容力の中におさまるような関係を構築していくといったことを意味しているのだと思います) / liittyvistä「結びつくような」[複出] < liittyvä 能現分 < liittyä / kiteytetään「結晶化させられる、具体化される」受現 < kiteyttää < kide / rajoihin asettuvaan「境界内へ立ち入るような」(asettuvaan [入] < asettuva 能現分 < asettua < asettaa) / rajoissa toimivana「境界内で機能するよう」(toimivassa [内] < toimiva 能現分 < toimia)

● フィンランド語理解のための訳例

持続可能な発展の変容において|森林関係は~である|[物質的な、そして非物質的な文化を|結びつけるような|将来遺産]、|そこでは|森林に結びつくような|知識、技能、世界像、そして行動から|具体化する|協同で|<次のような>意味をもつ森林関係の形態を、|[それらは導く|地球の環境収容力の境界内へ|立ち入るような|人間活動へ|森林との関係において]。これを支援する|文化的な森林関係を理解することが|[自然の境界の中で|機能するよう|自然の一部として]。

◎ 意訳

持続可能な発展の変容において、我々がもつ森林との関係というものは物質的および非物質的な文化を結びつける将来遺産である。そこでは、森林に関係する知識、技能、世界像、そして行動は我々の協同により、意味をもつ森林との関係という形で具体化するが、それは森林との関係における人間の行動が地球の環境収容力の限界の中へとどまるよう導くものだろう。人間がもつ森林との文化的関係を、あくまでも自然が設定する限界の中で機能する自然の一部として理解することが、

このこと、つまり人間の行動が地球の環境収容力の限界の中へとどまることを支えるのである。

★補足

この資料で使用した文章の多くは Turku 大学の Katriina Siivonen さんがお書きになったものです。その Siivonen さんが群島研究者の立場からお書きになった文章を見てみましょう。

【25】人間が自然を支配するのではなく、自然が人間を支配する

Keskeinen ekologisen kestävyuden ulottuvuus on ihmisen ja luonnon välisen suhteen kulttuurinen määrittäminen. Yleisellä tasolla ekologiselta kannalta siinä on oleellista tavoitella kulttuurin ja ihmisen ymmärtämistä luonnon ja sen kantokyvyn osana. Yksittäisten ihmisten toimissa tämä tulee esille heidän luontosuhteessaan. Toisaalta kyse on siitä, millaisia luontosuhteita kulttuuri ympärillämme tukee. Toisaalta kyse on siitä, millaisia tulevia luontosuhteita meistä kukin rakentaa yhdessä toisten ihmisten kanssa. Saaristotutkijana olen tutustunut saaristoidentiteetteihin, joissa elää vahvana ymmärrys luonnosta ihmistä viime kädessä hallitsevana auktoriteettina, jonka kanssa ei ole leikittelemistä. Tämän kulttuuriseen luontosuhteeseen sisältyvän ymmärryksen soisin vahvistuvan kaikkialla.

■ 語句・文法

saaristo「群島」< saari / yksittäinen「個別の、個々の」< yksittäin < yksi / tulevia「来るべき、未来の」[複分]< tuleva 能現分] < tulla / ihmistä viime kädessä hallitsevana auktoriteettina「人間を最終的に支配する権威として」(viime kädessä「最終的に」、hallitsevana「支配するものとして」能現分[様]< hallita、auktoriteetti「権威、権力」) / ei ole leikittelemistä「遊ぶべきではない」(leikittelemistä[分]< leikittelen 動名 < leikitellä「軽く扱う、もてあそぶ」< leikkiä < leikki。この形は伝統的には、動名詞ではなく「第 4 不定詞」という特別な形として扱ってきていると思いますが、いずれにしても「すべきである、すべきでない」といった意味を表します。) / sisältyvän「含まれるような」[属]< sisältyvä 能現分 < sisältyä < sisältää < sisä- / ymmärryksen soisin vahvistuvan「理解が強まるのを望むだろう」[分構](ymmärryksen[属]< ymmärrys、soisin「私は望むだろう」[条] 現単 1 < suoda、vahvistuvan 能現分[属] < vahvistua < vahva)

● フィンランド語理解のための訳例

中心的な|生態的持続可能性の次元は|~である|[人間と自然との間の関係の|文化的な|決定されること]。一般的なレベルで|生態的な観点から|そこでは本質的である|[追及する|文化と人間を理解することを|自然とその環境収容力の部分として]。個々の人間の行為において|これは前へ来る|彼らの自然関係の中で。一方では|問題は<次のことに>ついてである|[どのような自然関係を|文化は|我々の周りで|支援する]。もう一方では|問題は<次のことに>ついてである|[どのような来るべき自然関係を|我々のうち|それぞれが|構築する|一緒に|他の人々と]。群島研究者として|私は親しむようになった|群島アイデンティティに、|そこでは生きる|強いものとして|[理解が

|自然について|人間を|最終的に|支配する|権威として]、|それと一緒に|遊ぶべきではない。この文化的な自然関係へ|含まれるような理解を|私は望むだろう|強まることを|いたるところで。

◎意訳

生態的な持続可能性にとって中心的なものとなる問題は、人間と自然との関係が文化的に決定されるということである。一般的なレベルにおける生態的観点からすれば、そこでは、自然とその収容力の一部として文化や人間を理解するよう求めることが本質的に重要である。個々人の行動においては、このことは彼らの自然との関係の中に現れてくるだろう。一方では、我々の周りの文化がどのような自然との関係を支援するのかということが問題となる。そして、もう一方では、我々それぞれが他の人々と一緒に、未来へ向けてどのような自然との関係を構築するのかが問題となる。群島の研究者として、私は群島の人々のアイデンティティというものを深く知るようになったが、その中では、最終的に人間を支配する権威として自然を理解するという考え方が強く生きている。自然をもてあそぶことは許されないのである。自然との文化的な関係に対するこのような理解が、いたるところで強まることを私は望んでいる。

★補足

さて、今回の資料はパンデミックを生み出している原因に関する文章で始まりました。ですので、パンデミックに関連する文章に戻りましょう。本当であれば、パンデミックの生み出した状況は「持続可能な発展」を実現させるためには非常によい機会になったはずですが、どうも現状を見ていると、その機会をつかみそこなってしまった気がします。あるいは、そもそもパンデミックが重要な機会を与えてくれたことにさえ、我々は無自覚だったのかもしれない。

【26】パンデミックは大きなチャンスを与えてくれたのかもしれない

Pandemian ja siltä suojautumisen luoma muutostila voi suuntautua pitkällä tähtäimellä kulttuuriseen transformaatioon kohti kokonaiskestävyyttä tai lyhytnäköiseen oman turvan hakemiseen ja luonnosta ja ihmisten tasa-arvoisista elinmahdollisuuksista piittaamattomuuteen. Kulttuuriin vaikuttavat toisaalta kaikki ihmiset omassa elämässään, toisaalta kulttuuripolitiikan toimet. Kulttuurisen kestävyuden keinoja on mahdollista kehittää entistä paremmiksi siten, että ne tukisivat kulttuurista kestävyystransformaatiota vahvistamalla ihmisten epävarmuuden sietokykyä ja kulttuurin resilienssiä. Lisäksi tarvittaisiin kansainvälistä yhteistyötä sellaisten kulttuuripoliittisten toimien luomiseksi, jotka tukisivat ekologista maailmankansalaisuutta. Luontosuhde on yksi sen keskeinen ulottuvuus. Siten koronapandemian herättämä muutosalttius voitaisiin ottaa ihmisten ja luonnon hyvinvoinnin avuksi.

■ 語句・文法

suojautuminen「自分を守ること」動名 < suojautua < suojata < suoja/luoma「作り出すような」動分 < luoda/muutos-tila「変化の状況」/suuntautua「向かう」< suunnata < suunta/pitkällä tähtäimellä「長期的には」(tähtäimellä [接] < tähtäin「照準器」< tähdätä) /lyhyt-näköinen「近視眼的な、短絡的な」/hakemiseen「求めることへ」[入] < hakeminen 動名 < hakea/elinmahdollisuuksista「生存の可能性について」[複出] < -mahdollisuus < mahdollinen /piittaamattomuuteen「無関心へ、無視へ」[入] < piittaamattomuus + [出] < piittaamaton < piitata/entistä paremmaksi「以前よりもよいものへ」(paremmaksi [変] < parempi 比 < hyvä) /vahvistamalla「強めることにより」MA 不 [接] < vahvistaa < vahva/epä-varmuus「不確実性」/sieto-kyky「忍耐力、耐性」(sieto < sietää) /resilienssi「回復力、弾性、復元力、レジリエンス」/tarvittaisiin「必要とされるだろう」[条] 受現 < tarvita/luomiseksi「作り出すために」[変] < luominen 動名 < luoda/maa-ilman-kansalaisuus「世界市民であること」/herättämä「目覚めさせたような」動分 < herättää < herätä/muutos-alttius「変化に敏感であること、変化を受け入れやすいこと」(alttius < altis) /voitaisiin「できるだろう」[条] 受現 < voida/ottaa avuksi「~の助けとする、~のために利用する、~のために活用する」

● フィンランド語理解のための訳例

パンデミックとそれから自分を守ることの|作り出した|変化の状況|向かう可能性がある|長期的には|[文化的な変容へ|総合的持続可能性へ向けて]|あるいは[近視眼的な|自分の安全を|求めることへ]|そして[自然について|そして人間の不平等な生存可能性について|無関心であることへ]。文化には影響する|[一方で|すべての人間が|自分の生活において]、|[もう一方で|文化政策の行為が]。文化的持続可能性の方法を|[可能である|発展させる|以前よりもよいものへ]|<次の>ように|[それらは支援するだろう|文化的な|持続可能性変容を]| [強めることにより|人間の|不確実性の|耐性を|そして文化の回復力を]。加えて|必要とされるだろう|国際的な協力|<次

のような) [文化政策的行動を作り出すために、|それらは支援するだろう|生態的世界市民であることを]。自然関係は[一つである|その中心的な次元]。そして|コロナ・パンデミックの|呼び覚ました|変化に敏感であることは|[できるだろう|利用する]|人間と自然の福祉のために。

◎意訳

パンデミックとそれから自分たちを守ろうとすることは変化を受け入れようとする状況を生み出した。それは長期的には、総合的な持続可能性をめざす文化的変容へと向かうかもしれないし、近視眼的に自己の安全だけを求めることへ向かう可能性もあり、あるいは自然と人間の生存条件における不平等を無視することへと向かうかもしれない。いずれにしても、一方では、すべての人間が自らの生活において文化に影響を及ぼしているし、一方では文化政策上の行動も文化に影響を与えているのである。不確実性に対して人間のもつ耐性や文化の回復力を強化することで、文化的持続可能性を達成するための手段を発展させることが可能であり、それは文化的持続可能性への変容を支援するよりよいものへと発展するだろう。さらに、生態的な観点において世界市民であることを支援するような文化政策上の行動を起こさせるために、国際的な協力も必要とされるだろう。人間の自然との関係は、その中心的な次元の一つである。したがって、コロナ・パンデミックが呼び覚ました変化を受け入れようとする姿勢は、人間と自然の福祉のために利用することができるだろう。

★補足

それでは、次の資料Ⅲ-5へ向けて、さらにはテーマⅣへ向けて、いくつかの文章を読んで終わりにします。

【27】未来を思い描き、それを方向づけることはできるはずだ

Kulttuurin ja perinteiden muutos on kuitenkin väistämätöntä. Sitä ei voi pysäyttää, mutta sen suuntaa voi pyrkiä ohjaamaan tulevaisuutta hahmottamalla ja visioimalla.

■語句・文法

väistämätön「不可避な」否分 < väistää / pyrkiä ohjaamaan「導こうとする」(ohjaamaan MA 不 [入] < ohjata) / hahmottamalla「理解することにより」MA 不 [接] < hahmottaa < hahmo / visioimalla「思い描くことにより」MA 不 [接] < visioida < visio

●フィンランド語理解のための訳例

文化の|そして伝統の|変化は|しかしながら|不可欠である。それは止められない、|しかし|その方向を|導こうとすることはできる|[未来を|理解することにより|そして思い描くことにより]。

◎意訳

しかし、文化や伝統の変化は不可避である。したがって、それを止めることはできないが、しかし未来を理解することにより、あるいは思い描くことにより、その変化を方向づけようとすることはできる。

【28】文化が変わることが生態的、経済的、社会的持続可能性の前提条件となる

Transformaatiassa ihmisten taloudellinen toiminta, sosiaaliset ja yhteiskunnalliset rakenteet sekä ihmisten ja luonnon välinen suhde määrittyvät uudenlaisiin kulttuurisiin muotoihin. Siten kulttuurinen transformaatio on edellytys ekologiselle, taloudelliselle ja sosiaaliselle kestäväydelle samalla kun nämä kaikki tukevat toisiaan.

■ 語句・文法

määrittyä「決まる」< määrittää / uudenlainen「新しい種類の」 / toisiaan「おたがいを」[複分]+
複 3 所接 < toinen

● フィンランド語理解のための訳例

変容においては|人間の経済活動、|社会的<構造>|そして共同体構造、|さらに人間と自然の間の関係|決定される|新しい種類の文化的な形へと。そのため|文化的変容|[前提条件である|生態的、経済的、そして社会的持続可能性へ] | [<次のこと> 同時に|これらすべてが支援する|たがいを]。

◎ 意識

変容においては、人間の経済活動、社会構造や共同体構造、さらに人間と自然との関係は新たな文化的形態へと形を変える。したがって、文化的変容は生態的、経済的、そして社会的持続可能性の前提条件であり、同時にこれらはたがいを支援するものである。

【29】日常の行為について考える必要があるだろう

Kestävyyskriisissä olennaista on tukea ekologista kestävyyttä, myös kulttuurissa. Luontosuhteemme on myös kulttuurinen - luontoon vaikutetaan kulutusvalinnoilla, lähiluonnon käytöllä ja monella muulla arjen toimella.

■ 語句・文法

kriisi「危機」 / olennainen「本質的(に重要)な」 / kulutus-valinnoilla「消費の選択により」
(kulutus「消費」< kuluttaa < kulua / valinnoilla [複接] < valinta < valita / lähi-luonnon「近くの自然の」[属]< luonto / käytöllä「利用により」[接]< käyttö < käyttää < käydä / arjen「日常の」[属]
< arki

● フィンランド語理解のための訳例

持続可能性の危機において|本質的である|[支援する|生態的持続可能性を、|また文化においても]。我々の自然との関係もまた文化的である|—<なぜなら> 自然に影響を与える|[消費の選択により、|近隣の自然の利用により|そして、その他の多くの日常の行為により]。

◎意識

持続可能性が危機に陥っている中で本質的に重要なことは、生態的持続可能性を文化においても支援することである。なぜなら、我々の自然との関係もまた文化的なものだからである—我々は消費の選択により、近隣の自然の利用により、そして他の多くの日常の活動により自然に影響を与えているのだから。

★補足

資料Ⅲ-3で「最低限所得保障 (perus-tulo)」を扱う中でも触れましたが、持続可能性の実現には、とくに我々の「消費」形態を変えることが不可欠だと思います。このような問題についてはテーマⅣで考えていくことにします。その前に、資料Ⅲ-5で「持続可能な発展」のカギの一つが教育であるという問題について考えていくことにします。

◆出典

【1a】【1b】【20】【26】:

Tulevaisuusvaliokunta. 2020. *Koronapandemian hyvät ja huonot seuraukset lyhyellä ja pitkällä aikavälillä*, Eduskunnan tulevaisuusvaliokunnan julkaisu 1/2020. Eduskunta.

【1a】154 ページ、【1b】158 ページ、【20】158 ページ、【26】159 ページ

【2】【10】【11】【12】【15】【16】【17】【23】【24】:

Siivonen, Katriina. 2020. ”Metsäsuhte kulttuurisesti kestäväenä tulevaisuusperintönä”. Paaskoski, Leena & Heikki Roiko-Jokela. *Vuosilusto 13: Metsät ja kulttuurinen kestävyys*. Lusto – Suomen Metsämuseo ja Metsähistorian Seura. 10-23.

【2】6 ページ、【10】【11】【12】12 ページ、【15】13 ページ、【16】【17】16 ページ
【23】6 ページ、【24】18 ページ

【3】24 ページ、【13】24 ページ、

Halla, Tuulikki, Reetta Karhunkorva & Jaana Laine. 2020. ”Metsäsuhteet metsäkulttuurisen kestävyuden rakentajina”. Paaskoski, Leena & Heikki Roiko-Jokela. *Vuosilusto 13: Metsät ja kulttuurinen kestävyys*. Lusto – Suomen Metsämuseo ja Metsähistorian Seura. 24-37.

【4】【8】【21】:

Soini, Katriina. 2013. ”Kestävä kehitys ja kulttuuri”. Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatusta – kulttuuria etsimässä*, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisu 6, Erweko Oy. 12-23.
<https://www.kulttuuriperintökasvatusta.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatusta.pdf>.

【4】18-19 ページ、【8】21 ページ、【21】15-16 ページ

【5】【6】:

”Kulttuuri”. *Tieteen termipankki*. <<https://tieteentermipankki.fi/wiki/Ihmistieteet:kulttuuri>>.

【7】【18】【25】【28】:

Siivonen, Katriina. 2019. ”Ei kestävä kehitystä ilman kulttuuria – miksi niin?”. *Turun yliopiston blogi*.
<<https://blogit.utu.fi/utu/2019/02/22/ei-kestavaa-kehitysta-ilman-kulttuuria-miksi-niin/>>.

【9】【14】【19】【22】【27】:

Siivonen, Katriina. 2017. ”Kulttuurinen kestävyys”. Enqvist, Kari, Ilari Hetemäki & Teija Tiilikainen (toim.). *Kaikki vapaudesta*. Gaudeamus. 219-228.

【9】221 ページ、【14】220 ページ、【19】226 ページ、【22】224 ページ、【27】220 ページ

[29]:

Latvala-Harvilahti, Pauliina. 2021. ”Kulttuuriperintöstrategiaa laaditaan Suomessa kestävän tulevaisuuden kärjellä”. SKS. *Vähäisiä lisiä. Kirjoituksia kulttuurista, tutkimuksesta ja kulttuuriperinnöstä.*

<<http://neba.finlit.fi/blogi/kulttuuriperintostrategiaa-laaditaan-suomessa-kestavan-tulevaisuuden-karjella/>>.

蛇足

今回の資料で使用した文献の多くは、Turku 大学の Katriina Siivonen さんのお書きになったものです。次には、やはり Siivonen さんが Turku 大学についてお書きになった文章を挙げておきます。Turku 大学は、フィンランドでも文化的持続可能性に早くから注目してきた大学のようです。

【32】Turku 大学における「文化的持続可能性」

Turun yliopistossa kulttuurista kestävyttä on tutkittu erityisesti kansatieteessä ja tulevaisuudentutkimuksessa jo noin kahdenkymmenen vuoden ajan, mikä on pitkä aika sekä kotimaisessa että kansainvälisessä vertailussa. Kulttuurisen kestävyden opetus on meillä asetettu kestävä kehityksen sivuaineessa tasaveroiseksi ekologisen, sosiaalisen ja taloudellisen kestävyden rinnalle jo kymmenen vuotta sitten, mikä on edelleenkin harvinaista muualla.

<https://blogit.utu.fi/utu/2019/02/22/ei-kestavaa-kehitysta-ilman-kulttuuria-miksi-niin/>

■ 語句・文法

on tutkittu「研究されてきた」受完 < tutkia / vertailu「比較」< vertailla < verrata / opetus「教育」< opettaa < oppi ⇒ oppia / on asetettu「設置されている」受完 < asettaa / sivu-aineena「副専攻科目として」[様]< -aine / harvinainen「めずらしい」

● フィンランド語理解のための訳例

Turku 大学において|文化的持続可能性を|研究してきた|とくに|民族学において|そして未来研究において|すでに約 20 年の間、|それは長い時間だ|[国内の|そして国際的な比較において]。文化的持続可能性の教育は|我々のところでは|設置されている|持続可能な発展の副専攻科目の中で|同等なものとして|生態的、社会的、そして経済的持続可能性と並んで|すでに 10 年前に、|そのことは依然としてめずらしい|他の場所では。

◎ 意訳

Turku 大学においては、とくに民族学と未来学の研究の中で、文化的持続可能性はすでに約 20 年もの間研究されてきており、これは国内・国外どちらの比較においても長い期間である。さらに、文化的持続可能性の講座はすでに 10 年前から、「持続可能な発展」コースの副専攻科目として生態的、社会的、経済的持続可能性と同等の地位を与えられており、このこともまた他の場所においてはめずらしいことである。

◆ 出典

Siivonen, Katriina. 2019. "Ei kestävä kehitystä ilman kulttuuria – miksi niin?". *Turun yliopiston blogi*.

<<https://blogit.utu.fi/utu/2019/02/22/ei-kestavaa-kehitysta-ilman-kulttuuria-miksi-niin/>>.

SDGs などという「流行り言葉」を大学の宣伝文句に使う一方で、本来の研究や教育は痩せ細っていったる、より厳密にいえば、大学の人間自らが研究や教育を痩せ細らせていったる日本の現状。このような現状を見ると、まずは大学の中で、そして社会全体で、本当の持続可能性を実現するうえで大学が果たすべき役割について議論しなければならないはずだと感じます。大学在任中に、そのような重要なことに取り組み損ねた自分をただただ恥じる毎日です。